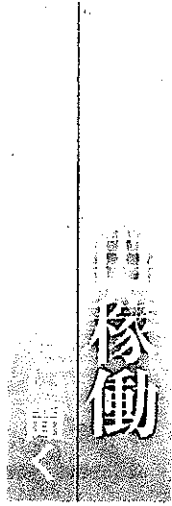


東山幸弘 ふるさとを守る高浜・おおいの会代表

「原発というのは人間がコントロールできないくらいのリスクを抱えている」。ふるさとを守る高浜・おおいの会の東山幸弘代表は指摘する。東京電力福島第1原発事故の凄惨さを目の当たりにして、「古里・高浜で放射能を閉じ込められるという



中

事故が起きたら…」と不安は尽きない。(聞き手・牧野将寛)
 —高浜4号機に次いで3号機も再稼働した。何が問題か。
 「関電は『止める、冷やす、閉じ込める』という3つの原則が守られているから、放射能が外に漏れるような大きな事故にはならない」という宣伝をずっと

福島教訓 学んだか



「古里・高浜で事故が起きたらどうなるのか」と不安を口にする東山さん
 =高浜町小和田の自宅

に任んでいる。高浜は年間通し西風で、教習への県内避難は考えづらい。高浜町民は本当に避難できるのか。舞鶴若狭自動車道が地震で封鎖された場合、避難道は国道27号1本しかない。5km圏内と30km圏内の人で段階的な避難となるが、舞鶴市の仕事に就いているのは事実。

確かに、すぐに産業転換はできないと思う。時間はかかるが、関連している人たちにも理解してもらって脱原発を進めるべきだ。今と同じ規模の財政規模にはならないが、地方交付税を受けるなどして身の丈に合った財政規模にすればいい」
 —東京電力福島第1原発事故から時間がたち、消費地の関心は薄れていないか。
 「国民は福島の事故が起きるまでは、電気がどこで作られているか関心がなかったことは確か。事故で電力消費地の人たちの意識も少しは変わってきていると思う。原発が止まっても停電にはならないし、動かさなくてもいいという勢力は増えている。節電意識も定着している。関電が言うように、何が何でも原発を動かさなければいけない状況はない」